



# アルゼンチン通信

第 1 号 2024 年 08 月 30 日発行(毎月月末発行予定)

JICA シニア海外協力隊 2024 年 1 次隊:経営管理

玉東町グローバル 2024 年 03 月卒業生 鈴木功二

2024 年の 2 月から 3 月まで、玉東町の皆さまには大変お世話になり、誠にありがとうございました。

一か月限定の英語教室や放課後子ども教室など、楽しかった思い出であると共に、ここアルゼンチンで活動する上で、貴重な経験になっており、改めて感謝申し上げます。

玉東町でグローバル卒業後は、駒ヶ根市の訓練所でスペイン語を猛特訓、8 月初め、念願のアルゼンチンに着任しました。今は首都のブエノスアイレスに滞在して、現地のスペイン語学校に通っています。

アルゼンチンまでは地球を半周、直線距離で約 2 万キロですが、直行便はなく、ドイツのフランクフルト経由で、ロシアのシベリア上空を通ることができなかったこともあり、乗り継ぎも含めて 40 時間以上掛かりました。

日本との時差はマイナス 12 時間で、日本の夜の 7 時は、アルゼンチンで朝の 7 時です。

南半球にあるので今の季節は冬、朝は 4℃ほど、日中は 12℃ほどで、日本の酷暑と比べると快適、というよりも、まだマフラーが必要なほど肌寒いです。

前回、ブエノスアイレスを訪れたのは 25 年前、ウルグアイのモンテビデオから船でたどり着きました。当時と比べて、船のターミナルが大きく変わり、近代的な高層ビルが建っている等の違いはありますが、大きくは変わっておらず、街の一部分だけを切り取れば、パリと変わらない雰囲気は今も同じです。

しかし、街を歩いていて最も大きな違いを感じたのは、経済状況を反映してなのか、路上生活者の多さ、ゴミ箱の中を探す人の多さです。一説によると、ブエノスアイレスの路上生活者は約 1 万 5 千人ですが、街の各ブロック毎(京都と同様に、通りが碁盤の目のようになっていて、その一区画毎に)に数人いて、普通の住宅街でも見かけるので、実際はもっと多いような気がします。中でも子供連れを見ると胸が痛みます。野宿する大変さは私も経験しており、あの環境で生きる根性があれば、きっかけさえつかめば、抜け出すことができると思うのですが、、、もう少しスペイン語が上達したら、今に至った経緯を直接インタビューしてみたいと思っています。

また、日本と違って、街の通りに大きなゴミ箱が設置されているのですが、その中を覗き込む人を多く見かけます。最初は何をしているのか、よく判らなかつたのですが、じっくり観察してみると、ゴミの中から食べ物や換金できそうなモノを探していることが判りました。中年の女性もよく目にして、なぜあのような人が？と思うような小綺麗な身なりの人も中にはいます。

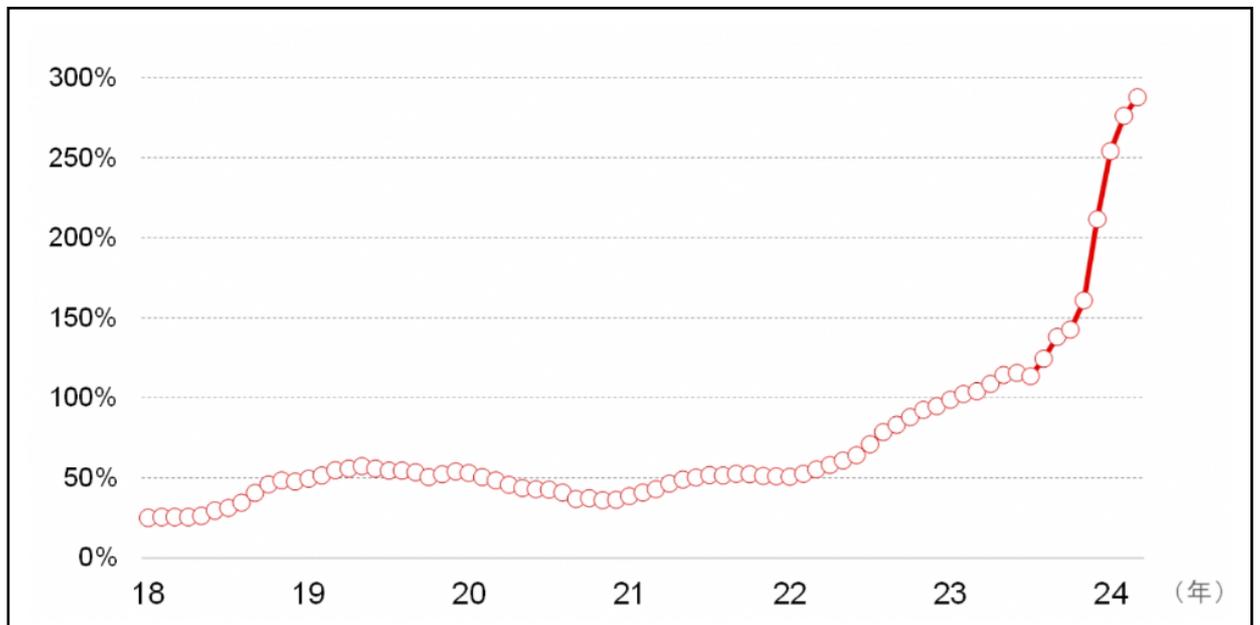
背景の一つは物価高と思われ、今は落ち着いていますが、今年の 3 月にはインフレ率が 280 %台にまで達したことも一因と推測しています。(1 年前は 100 ペソだったモノが 380 ペソ、4 倍近くになったということです。)

25 年前も今も、空港やオフィス街など、外から見る限りは先進国と変わらないのに、どこをどのように間違えるとこのようになってしまうのか、個人テーマとして、この 2 年間の滞在中にじっくり観察してみます。その為には、アルゼンチンという国を深く知る必要があり、個人目標として、アルゼンチンの 23 州全てを訪問してみます。(日本、アメリカ、タイ、ドイツは、全ての州/県を訪問しました。)

初回のアルゼンチン通信ということもあり、少し内容が固くなってしまいましたが、次回以降は軽め的话题で、アルゼンチンを紹介していきたいと思えます。

鈴木功二

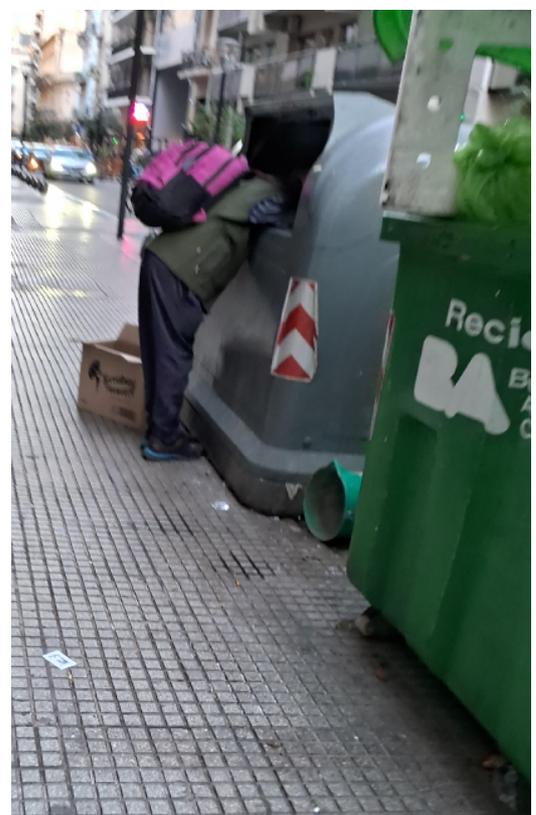
【アルゼンチンのインフレ率（前年同月比）の推移、出所 CEIC】



【子供連れの路上生活者、店の前で物乞い】



【通りのゴミ箱の中を覗き見る人】



※下手な写真で申し訳ありません。幸せそうに見えない人に対して、カメラを向けるのは大きな抵抗感があり、中でも子供の姿には胸が痛みます。

参考：配属先の INTI(アルゼンチン国立工業技術院)本部訪問時の紹介記事：

<https://www.argentina.gob.ar/noticias/dos-expertos-japoneses-se-suman-la-red-de-tecnologias-de-gestion>